

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～21回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 22～33回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 34～35回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 36～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～7回目	ビジネス文書					
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス # 1-6					
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス # 7-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～36回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【前期】 37～38回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 39～71回目	アンサンブルとは何か 課題曲⑤～⑧ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 72～74回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	スコアライティング&イヤトレ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	スコアライティング&イヤトレ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフトによる譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフトによるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音(半音、全音、メジャースケール上のインターバル) 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音(3種類のトリックマイナースケール上のインターバル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音(その他のインターバル①) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コード切れなし) ・リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目	旋律聴音(その他のインターバル②) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コード切れあり) ・ダカーボ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～24回目	和音聴音(トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認(音符、休符の種類、各種記号など) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 25～29回目	和音聴音(テトラッド Maj7、6th、7th) 楽譜作成ソフトの基礎操作方法(テンキーを使った音符のステップ入力) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 30～34回目	和音聴音(テトラッド m6th、m7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 35～37回目	和音聴音(テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜、TAB譜の作成(応用編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ドラマーセオリーⅡ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ドラマーセオリーⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験19年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。 ドラムの教則本を出版。					
授業概要						
1年次の内容をブラッシュアップし、ドラマーとして必要なあらゆる知識の習得を目指す。 ドラムセットのチューニング方法、楽器選び、世界で活躍するドラマーの奏法やスタイルを学ぶ。						
到達目標						
一ドラマーとして演奏ジャンルや音楽スタイルに合わせたドラムセットのチューニング、様々なジャンルの音楽性を吸収し自立したミュージシャンを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	前期の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・イベント、発表会について ・アンサンブル、DAW、音楽理論についての確認					
【前期】 6～10回目	チューニング① タムタム、フロアタム、バスドラムのチューニング ・均等張りと上下のヘッドの調整 ・音楽ジャンルによるチューニングの違いとマイクのりを意識したミュート方法 ・バスドラムのサウンドホールの空け方と経緯、アタック効果について					
【前期】 11～15回目	チューニング② スネアドラムのチューニング ・均等張りと上下のヘッドの調整 ・響き線(スナッピー)の調整と音楽環境によるヘッドの選択方法 ・音楽ジャンルによるチューニングの違いとピッチ、サステインに関する一般論について					
【前期】 16～19回目	イベント・発表会の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイルをアドバイス ・演奏動画を撮影し自身のプレイを客観視する					
【後期】 20～24回目	後期の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・卒業後の音楽活動のシミュレーション ・アーティストとミュージシャンの相違について					
【後期】 25～29回目	ドラマー研究① 各ジャンル(ロック、ポップス)の教則、Live映像鑑賞、及び奏法説明、ディスカッション					
【後期】 30～34回目	ドラマー研究② 各ジャンル(ジャズ、ブルーズ)の教則、Live映像鑑賞、及び奏法説明、ディスカッション					
【後期】 35～37回目	音楽で生計を立てる事の考察 ・請求書の書き方、確定申告と税金について ・卒業後の進路等のカウンセリング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベーシックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ベーシックⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験13年 2009年個人での活動を開始、ライブサポート、レコーディング等を主に著名アーティストとも共演。ヴォーカリストやシンガーソングライターのサポートドラマーとしても活動中。					
授業概要						
ドラムの音作り、ヘッドやパーツの選択やミュート、チューニングによる音の違いを知り、より実践的なサウンドメイキング方法の会得を目指す。						
到達目標						
ライブやレコーディング時におけるチューニング方法の会得						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	・オリエンテーション ・基本のチューニングのやり方、考え方。 ・基本チューニング、スネア編①					
【前期】 6～10回目	・基本チューニング、タム編① ・基本チューニング、フロア編① ・基本チューニング、バスドラ編①					
【前期】 11～15回目	・ミュートによる音の違いを知ろう(材、位置) ・ミュート、スネア編 ①ミュート、タム類編 ・ミュート、バスドラ編					
【前期】 16～20回目	・セットバランスを整える ・マイキングした音を知ろう(合同)					
【後期】 21～24回目	・応用チューニング、スネア編 (ヘッドの違い、フープによる違い、スナッピー、コード、テープ) ・応用チューニング、タム編					
【後期】 25～29回目	・一般的にNGと言われる組み合わせ(例:スネアの裏にエンペラー) ・音の言語化、表現、伝え方(明るい、暗い、元気などなど) ・音の耳コピ、音源の再現①					
【後期】 30～34回目	・実践チューニング、トラブルシューティング“こんな時どうする?” ・音が揺れてる、変な倍音が鳴っている。 ・マイキングした音を知ろう②(合同)					
【後期】 35～37回目	・音の耳コピ、音源の再現②					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	Perセッション		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	Perセッション	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 様々な楽器の演奏をこなし、自身のバンドにおいては国内外を問わずライブ活動を展開中。 数多くの大型野外フェスティバルにも出演経験あり。劇団四季ミュージカルライオンキングに10年以上に渡り出演中。					
授業概要						
様々なパーカッションの習得を目指し、また様々な形態のアンサンブルを経験することで、より幅広いリズムパターンやサウンドの追求、プレイの柔軟性、アンサンブル力やタイム感の向上を養う。						
到達目標						
ドラマーとしてだけでなくパーカッショニストとしてもセッションに参加できるミュージシャンを目指す。 ・ハンドパーカッションの奏法の習得。 ・楽器の違いによるフレー징の違いを体感する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	様々なパーカッションの奏法レクチャー ・ハンドパーカッションに共通する基本的な奏法の習得 ・基本的な奏法を様々な楽器に応用し楽器の違いにより奏法を微調整する必要性を学ぶ					
【前期】 6～10回目	パーカッションを用いたリズムトレーニング ・世界の伝統的なリズムアンサンブルを演奏 ・オリジナルのフレーズでのトレーニング					
【前期】 11～15回目	ドラムセットとパーカッションでのリズムセッション ・世界の伝統的なリズムアンサンブルの中の1つをドラムセットに置き換えてアンサンブル ・あるフレーズに対して音楽的に相性の良いフレーズを創造して演奏する					
【前期】 16～20回目	ブリとは？グルーヴとは？言語化できるレベルまでの理解と実践 ・言語化する為にこれまでの演奏を通してグルーヴを体験する ・体験を繰り返し行うことにより自分の演奏によってその状態がいつでも創り出せるよう理解を深める					
【後期】 21～24回目	フレーズの解釈とアプローチ、歌うことの重要性と実践 ・そのフレーズのアクセントがどこにあるか、またそのアクセントを移動させるとどう感じるか ・フレーズの“アタマ”とは？					
【後期】 25～29回目	互いのリズム、呼吸を感じて演奏する為のディスカッションとオープンな姿勢について ・アンサンブルをする際の耳の使い方 ・自分の音と他の音をどのくらいの分量で聴くのか					
【後期】 30～34回目	ツインドラムでのアンサンブル ・これまで行ってきたパーカッションアンサンブルを参考にそのフレーズをドラムに置き換えて演奏してみる ・ドラムにフレーズを置き換えた際にパーカッションとの違いを把握しより適したアンサンブルへアレンジする能力を養う					
【後期】 35～37回目	ベース(講師)とドラムセット＆パーカッションでのセッション ・ベースのフレーズに対して合うフレーズをドラムセットとパーカッションそれぞれで構築する ・ベースのフレーズを変化させた際にも臨機応変に対応できるような対応力も磨く					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	インプロ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	インプロ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	大学卒業後、山下恒二、栗田八郎(白木秀雄クインテッド)に師事。単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず各種Session、bandを経て。現在自身のバンドのリーダーとして都内を中心に活動中。実務経験39年。				
授業概要					
ディキシランド、スタンダード、ビッグバンド、ディズニー等のジャズドラム、ボサノバ、アフロ等のラテンドラムから、アドリブ性を養う。ブラシ奏法の原理を知り、ブラシでの演奏を可能にする。					
到達目標					
フィールとビートを操り、JAZZ Sessionに参加、対応出来るように、インスピレーションとソロを身につける。					
授業計画・内容					
【前期】 1～10回目	JAZZとラテンの4ウェイの基本と奏法を習得する。				
【前期】 11～20回目	四分音符とバラディドルの原理原則を知り、JAZZとラテンに対応出来る手段を習得する。				
【後期】 21～29回目	ディキシ、ディズニー、ブルース、スタンダード、4/4 6/8 などの参考音源からの演習とロールプレイ。				
【後期】 30～37回目	フィール、ビート、メロディを即座に覚知し、オーケストレーションを実現する。				
評価方法					
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	グルーヴ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	グルーヴ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験30年 1994年メジャーデビュー。3枚のアルバムをリリースし、TV音楽番組にレギュラーバンドとして出演。現在はサポートドラマーとして数々のセッションやアーティストのライブサポート、レコーディングに参加している。					
授業概要						
一年次に習得した基礎をさらに昇華させ、グルーブという観点からより実用的かつテクニカルに発展させる。						
到達目標						
音楽家として活動していく為に必要な技術と精神の修得。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	一年次に行った基礎練習の再確認、アクセント移動、手足のコンビネーション、シンコペーション、ダブルストローク ※基本的に練習台で行う					
【前期】 6～10回目	クリック等をいれて、1～5週でやった確認事項のブラッシュアップ、リズムパターンもゴーストノートFill含め基礎的練習が反映されているか再確認 ウラクリックでのトレーニング、パターンへのはめ込み、シャドウトレーニングによるフォームの改善					
【前期】 11～15回目	曲の中で音色、アンサンブル、歌詞などを、他の音を意識しグルーブをだしていく練習。 現在流行中の生徒にもわかりやすい楽曲を使用しグルーブとは、一人で創れるものではなくアンサンブルや楽曲の流れの中で創造されていく感覚を掴む					
【前期】 16～21回目	曲、リズムパターンを15週やった意思の上でスティックコントロールに戻る Allamericandrummerなどの教則本も使用し、ダブルストローク、パラディドルなどのルーディメンツをグレードアップした練習 ※クリックに対しても4月より正確な対応をするトレーニング					
【後期】 22～24回目	難易度の高い4Wayで鳴らしている音すべての精度を意識できるように訓練しキッドバランスを整える 特に左足、左手のHHワークやゴーストの手癖などを徹底して修復、ライドシンバルの音色も追求して雑音除去していく					
【後期】 25～29回目	グルーブの解釈が小さくまとまらないよう、Jazz、サンバ、ラテン、ポサ、レゲエ等ワールドサウンドに触れ、個人それぞれの持つ個性について見つけていく ラテンはソング、サンバはkickの練習として、jazzは小音量のグルーブ練習として参考音源、映像をまじえ進行					
【後期】 30～34回目	テクニカルな曲やリズムの中でもグルーブが出せるようにトレーニング クリック練習、チューニングも含めて全体像で音楽を捉えるように11～15週でやったことの発展形を目指す					
【後期】 35～37回目	二年間の集大成として、個々の個性を生かしたうえで授業内発表会、今後の活動の礎を探す 研究発表もあり他者の論理を理解し自己の論理を展開できる音楽人なる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コンビネーション		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	コンビネーション	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年 2009年個人での活動を開始、ライブサポート、レコーディング等を主に著名アーティストとも共演。ヴォーカリストやシンガーソングライター のサポートドラマーとしても活動中。					
授業概要						
各種ジャンルにおいて需要が高まってきているツインペダルのフレーズを主眼に置き、ロックドラミングを中心とした観点からドラマーとして必要なセ オリーの、テクニックとパフォーマンスの向上。						
到達目標						
1年次に学んだ基礎を元にした応用技術の習得。 ・楽曲に適した演奏をする為のテクニックを自分のプレイに反映させることが出来るクオリティでの修得。 ・演奏技術だけではなく見られる事を意識した演奏時のパフォーマンスの向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ツインペダルを用いた奏法の説明 ・ツインペダル使用時の基本ドラミングフォームの説明 ・左足でもバスドラムを演奏するためのバランスのととり方等、身体の使い方の解析					
【前期】 6～10回目	四肢のコンビネーション ・両手両足の交互打ち等のバランスを整える ・コンビネーションフィルの習得					
【前期】 11～15回目	各種連打 ・ツインペダルを用いたリズムの細分化(4分、8分、3連、16分、6連) ・右スタート、左スタートの踏み分け					
【前期】 16～19回目	楽曲コピー① ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
【後期】 20～24回目	応用リズムパターン①(変則的な足順) ・16キックのパターンを基に左足を足していき、オルタネートではない変則的な足順での奏法の解説 ・変則的な足順を使用しているフレーズの練習					
【後期】 25～29回目	楽曲コピー② ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
【後期】 30～34回目	応用リズムパターン②(ポリリズム) ・コンビネーションの発展とポリリズム ・32分音符を織り交ぜたヘルタフレーズ					
【後期】 35～37回目	楽曲コピー③ ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						